
ゼロ魔?ラグナロック ~ 闇の聖母伝説 ~ (一発ネタ)

リアルではおぜうタイプ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼロ魔？ラグナロック ～闇の聖母伝説～（一発ネタ）

【Nコード】

N9828T

【作者名】

リアルではおぜうタイプ

【あらすじ】

これは、かつて【魔王プリエ】と呼ばれた、一人の少女の物語

物語は語り継がれゆき、そして伝説となり
また、物語が始まる

つまりは魔王プリエがゼロ魔入り。口調はラグナロックプリエですが中身はディスガイアプリエ。

ラグナロックプリエはエトナとキャラががが…

需要があれば連載するかもしれない。
しないかもしれない。
しないと思う。

魔界

悪魔と呼ばれるモノが蔓延り、日々力による争いが絶えない世界。多数存在する魔界、その魔界を統べる者を【魔王】と呼ぶ。魔王となるには何をすればいいか？至極単純にして簡単。魔界にいる全ての悪魔より強くなればいい。

そしてこの魔界には、一風変わった魔王がいた。

その魔王の名は、プリエ。

かつて人間として、さらに悪魔被いとして生きていたプリエだが、力を求めすぎた挙句逆に魔王となってしまった哀しき少女。

このプリエという魔王。言わば【魔王を狩る魔王】なのである。

特に部下を持たず、ただ一人で魔界を支配してきた。

プリエの名は数多き魔界でも知らぬ者はいない。

何故なら彼女は、超魔王と謳われたボールを二度も打倒したのだ。

だが彼女はただ力のみを求める存在。超魔王という肩書には興味がないようで、未だ一介の魔王を名乗っている。

「……はあ。つまんない……」

プリエの呟きは、何もいない荒野の魔界に消えていく。

プリエの目的はただ一つ。

【とにかく強い奴と戦って、倒す】。ただそれだけなのだ。

故に未だボールを超える相手がいないという今に飽き飽きしていた。

突然、プリエの真下に魔法陣が現れる。

オメガやテラ系魔法とは違う、もっと別の魔法陣が。

「……！？何これ!？」

避けようとするも気づくのが遅すぎたのか、魔法陣が放つ光に包ま

れ、プリエはその魔界から【消えた】。

トリスティン魔法学園の一角、青い空と緑の草原。そこにいたのは数十人のマントを身に着ける少年少女たち。

一人ずつ呪文を唱えると、魔法陣からは蜥蜴やら土竜やらが現れる。その傍ら、一人だけ若干不安そうにしている少女がいた。

彼女の名は【ルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエール】。

通称【ゼロのルイズ】。

彼女、ルイズには魔法の才能がないと言われていた。

あらゆる、どんな魔法でも爆発しかでない。故に使える魔法が【ゼロのルイズ】。

「ゼロのルイズが何を呼び出すんだ？」

「呼び出せっこないわよ。どうせまた爆発して終わりよ。」

「……この宇宙の何処かにいる、私の僕よ！神聖で、美しく、そして強力な使い魔よ！私は心より求める！我が導きに答えなさい！！」

ルイズが手に持つ杖を振り下ろした途端

キィィィィン、ドガアアン。

大爆発が起きた。

爆風による砂煙により、周りは大混乱に陥る。

その中で一人、ルイズの目の前にあるものを発見した。

白と紫を基調にしたローブ（しかし脚が大幅に露出している）を身

にまとつた、ルイズと同程度の少女が爆心地にいた。

「いったたた……随分荒っぽい召喚よ、つたく。召喚される側ってこんな気持ちなのね。」

「…あんたが、私の使い魔？」

「使い魔ア？仮にも魔王になつちやつた私が使い魔……つて……！」

突然少女は自らの体を少し見ると、突然叫びだした。

「人間に戻ってるー！！！！！！！！！！」と。

「あれがルイズの呼び出した使い魔？」

「まさか人間を呼び出すなんて。流石ゼロのルイズだ」

「で。あんた誰？私の使い魔、つてことでもいいのよね？」

周りからの声も気にせず、ルイズは少女に話しかける。

「召喚されちゃつた以上そうなんでしょうね。誰かに仕えるとかどれぐらいぶりだろ……」

「……失礼、名前をうかがつてもよろしいかな？」

突如、ルイズの横から声がかかる。

ルイズたちの教師、コルベールは少女に杖を向け、警戒心むき出しだった。

「プリエよ。元人間の悪魔被いで魔王。特技はバトン。」

「魔王だつて……」

「それが本当だつたら、誰も勝てないんじゃない!？」

プリエが自己紹介をすると、途端に周りがざわめいた。

【メイジの力量が知りたくば使い魔を見よ】という言葉がある。

使い魔が強大な者ならばそれを使役するメイジはさらに強大である、
という論法から成り立つ言葉だ。

つまり、【魔王】を使役するメイジ。これだけで生半可なメイジな
らば尻尾を巻いて逃げ出すどころか恐怖で身動きすら取れなくなる
だろう。

「じゃあ、「コントラクト・サーヴァント契約をするわ。ちょっとこっち来なさい。」

ルイズの指示通りに、プリエはルイズの目の前に立つ。

プリエはルイズより若干身長が高いため、心なしか姉妹にも見える。
髪の色は全く違うが。

「我が名はルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリ
エール。五つの力を司るペンタゴン。この者に祝福を与え、私の使
い魔となせ。」

言葉を連ねると同時に、ルイズはプリエと唇を合わせた。
喜ぶ人なら喜ぶが、プリエは突然のことに驚き、若干後ろに飛び退
いた。

「な……ななな、何でキスウ!？」

「それが契約だからよ…私こそなんで好き好んで同性とキスしなき
やなんなのよ…」

「んなの私が聞きたいわ!あああ…数百年守ってきたファースト
キスがあゝ……………」

がっくりと項垂れるプリエ。

しかし突如、プリエの左手に痛みが走る。

「……………?何これ。」

プリエ自身、その痛みは何の苦痛にもならないようだ。数百年の間魔王として戦ってきたプリエにとって左手が焼けることなどいつものことなのである。

数秒後、プリエの左手にはある模様が刻まれていた。

これで【魔王プリエ】は正式に【ルイズの使い魔】となったのである。

「なんとというか、使い魔って変な感じね。おりゃっ」

突然プリエが右手を軽く握り、地面を軽くコン、と殴った。

途端、魔法学園、いや、ハルケギニア中が突如地震に襲われた。

プリエが殴った地面は深く抉れ、クレーターと化していた。

揺れはすぐに収まったものの、周りの他の生徒は完全に驚いていた。いや、おびえていた者も多いだろう。

自分たちと同じような年齢に見える女が、地面を軽く殴っただけで地面を大きく抉ることができるということに。

そして、そんな奴を使い魔としたルイズに。

「ちょっと！何いきなり地面抉ってるのよ！ちょっと驚いたじゃない！」

「いやーゴメンごめん。ちょーつとやってみたかったんだ！。地面割。」

そんな出来事が起こったのに、まるで当然のように話すルイズとプリエ。

このとき、この場にいる全員が確信した。

【ゼロのルイズが、本当に魔王を使い魔にした】と。

これは、後にハルケギニアの大魔王と呼ばれることになる、
二人の少女の物語。
物語は語り継がれゆき、そして伝説となる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9828t/>

ゼロ魔?ラグナロック ~闇の聖母伝説~（一発ネタ）

2011年6月11日08時40分発行